SONY

取扱説明書

お買いあげいただき、ありがとうございます。

お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

FMステレオ/FM-AMチューナー

ST-S555ESX

© 1986 by Sony Corporation

多様化する現代のオーディオ機器の中で、改めてオーディオの原点に立ち戻り、
音質と基本性能を徹底的に追求した、ソニーESシリーズ——
オーディオファンの厳しい聴感に十分お応えでき、時代を超えたその価値が、使い込むほどに
おわかりいただけるオーディオコンポーネントシリーズです。

目次

主な特長 …… 2
正しくお使いいただくために …… 3
各部の名称と働き …… 4
マニュアル選局 …… 6
オート選局 …… 7
メモリーするには …… 8
メモリー選局 …… 9
プログラムするには …… 10
接続 …… 12
FM アンテナについて …… 15
主な仕様 …… 15
トラブルチェック …… 裏表紙
保証書とアフターサービス …… 裏表紙

主な特長

優れた性能と音質

全回路を低ひずみ化
トラッキングエラーを補正し、フロントエンドのフィルター特性を平坦にしてRF波形を最適化するSST（スーパーサウンド トレーシング）回路を採用。また、IF波形を最適化するWOIS（ウエーブ オプティマイズドIFシステム）、PLL検波器の発振波形を最適化するWODD（ウエーブオプティマイズド ダイレクトディテクター）回路の採用により、全回路で低ひずみ化を実現しました。

高S/N比
高速PLL ICを使ったダイレクトコンパレーター（シンセサイザーの比較周波数を受信ステップと同じ100kHzにする方式）の採用とコントロール回路をスタティック化することで、高いS/N比を実現しました。

便利な機能

- バンドや周波数のほか、FMではIFバンドやMUTE/MODE、アンテナの条件をメモリーできる、マルチプロセスメモリー。
- 市販のタイマーを使って、4回の自動受信を可能にするプログラム機能。
- メモリーされている局やプログラムされている局をボタン1つで順次呼び出すことができる、メモリースキャンプログラムリード機能。
- FM IF帯域を狭く（NARROW）することで、FMの高選択度受信ができる、IF帯域切り換え機能。
- アンテナの向きの最良点をさがすのに便利なマルチパスインジケーター。
- FM多局化に対応し、より良い受信状態を可能にする2系統のアンテナ入力。

正しくお使いいただくために

電源

家庭用電源コンセント（AC100V）につないでご使用ください。国内用ですので海外ではご使用になれません。

電源コード

電源コードを無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。

電源を抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

感電を防ぐために

キャビネットは、絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することがあり危険です。

異物について

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや、金属類を落とさないでください。そのまま使用すると火災や感電、故障、事故の原因となります。

アースするには

絶対にガス管にはつながないでください。ガスに引火して爆発するおそれがあります。

雷が鳴り出したら

屋外アンテナを使用中に雷が鳴り出したら、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。このとき、アンテナ線には絶対に触れないでください。

置き場所

次のような場所は避けてください。

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な所。
- 振動の影響を受けやすい所。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光のあたる所、湿気の高い所。
- 極端に寒い所。

お手入れ

キャビネットおよびパネル面のよごれは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので、使わないでください。

異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたとき、異物が中に入ったときは、電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、すぐにお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

各部の名称と働き　●内のページに説明があります。

前面

SST　サーキットインジケーター❼
SST回路が動作すると点灯します。

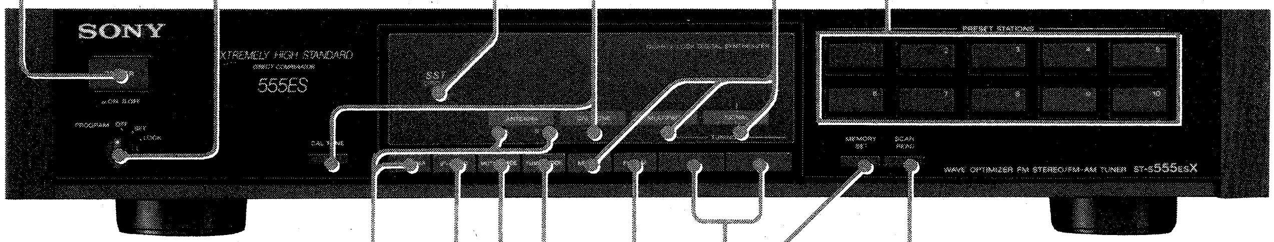
PROGRAM（番組予約）スイッチ❿
OFF：通常の位置
SET：留守録音や番組の予約をする位置
LOCK：プログラム録音をする位置
　　　録音中の誤操作を防止します。

POWER（電源）スイッチ

CAL　TONE ボタンとインジケーター
テープデッキの録音レベルを調節するときに便利な基準音（400Hz、50％変調相当）を出します。CAL TONEが出るとインジケーターが点灯します。

METER ボタンと MULTIPATH/SIGNAL インジケーター⓯
ボタンを押すとMULTIPATHインジケーターが点灯し、メーターはマルチパスの程度を示します。もう一度押すと、SIGNALインジケーターの点灯にもどり、電波の強さを示します。

プリセットボタンとインジケーター❽❾
ボタンを押すと、そのボタンにあらかじめメモリーしてある局が受信され、インジケーターが点灯します。



ANTTENNA ボタンとインジケーター
FMアンテナを選びます。押すたびにA、Bが切り換わりインジケーターが点灯します。

IF -BAND 切り換えボタン❻
FMのIF帯域を選びます。通常はNARROW表示を消しておきます。

MUTE/MODE ボタン❻
通常はMUTINGインジケーターが点灯した状態にしておきます。

TUNE MODE（選局モード）切り換えボタン❻❼
オート選局、マニュアル選局を選びます。押すたびに切り換わり、オート選局を選ぶと、ディスプレイ部にAUTOを表示します。

FM/AM 切り換えボタン
押すたびにFM、AMが切り換わります。

TUNING（選局）ボタン
選局の周波数を低くするには－ボタンを、高くするには＋ボタンを押します。

SCAN/READ ボタン❾⓫

PROGRAMスイッチ	SCAN/READボタンの働き
OFF	SCAN（メモリースキャン）ボタンとして働きます。メモリーされている局が約4秒ずつ受信されます。
SET	READ（プログラム読み取り）ボタンとして働きます。プログラムされている局が約2秒ずつ受信されます。

MEMORY/SET ボタン❽❿

PROGRAMスイッチ	MEMORY/SETボタンの働き
OFF	MEMORYボタンとして働きます。プリセットボタンに局をメモリーするとき押します。
SET	SET（プログラム予約）ボタンとして働きます。聞きたい局を予約するとき押します。

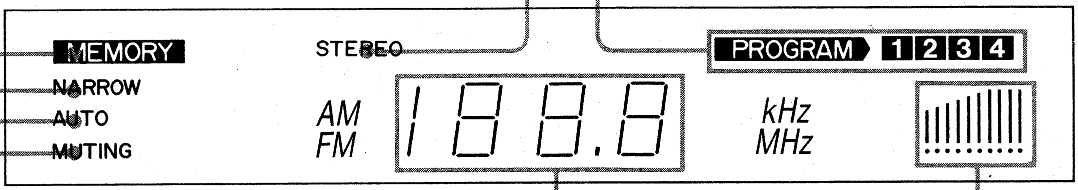
ディスプレイ部

NARROWインジケーター
IF-BAND切り換えボタンでNARROWを選んだとき点灯します。

MEMORYインジケーター
MEMORY/SETボタンを押すと約4秒間点灯します。

STEREOインジケーター
ステレオ放送を受信すると点灯します。ただし、電波が弱い場合や、MUTING MODEボタンでOFFを選んである(MUTINGインジケーターが消えている)場合は点灯しません。

PROGRAMインジケーター❿
PROGRAMスイッチがSETおよびLOCKのとき点灯し、放送局がプログラムされている順番を1～4の数字で表示します。



ミューティングMUTINGインジケーター
MUTING/MODEボタンを押すと点灯します。

オート選局モードインジケーター
TUNING MODE切り換えボタンでオート選局を選んだとき点灯します。

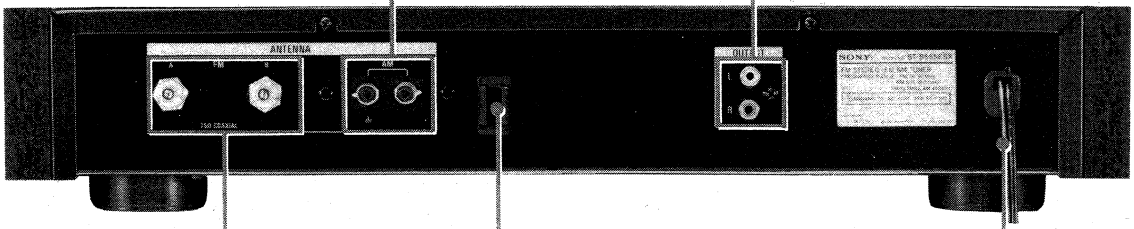
シグナル／マルチパスメーター
シグナル：受信した電波の強さを示します。
マルチパス：マルチパスの程度を示します。メーターの振れが少ない程、マルチパスは少なく、よい受信状態といえます。

周波数表示窓
受信している周波数を表示します。

後　面

AMアンテナ端子⓬⓭

OUT PUT端子⓬
アンプのTUNER IN端子とつなぎます。



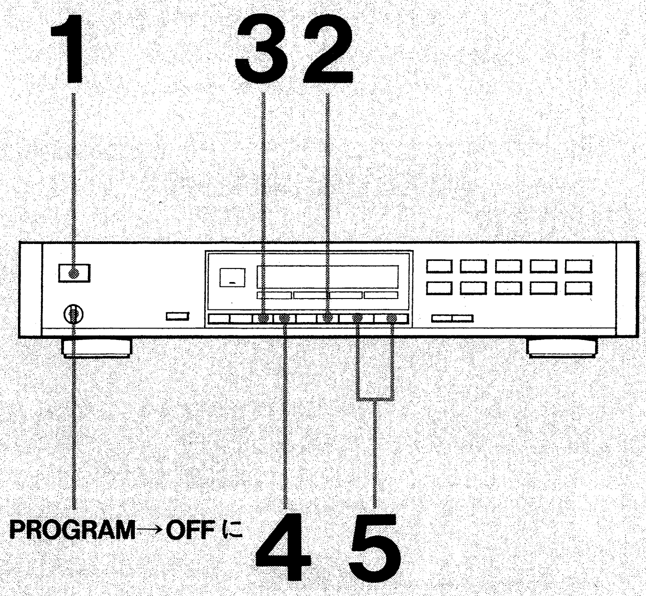
FMアンテナ端子⓬⓭

ループアンテナホルダー⓮
付属のAMループアンテナを取り付けるときに使います。

電源コード⓮

マニュアル選局

聞きたい放送局の周波数がわかっているときや、オート選局では受信できない電波の弱い局を受信したいときに便利です。



準備　PROGRAM スイッチを必ず OFF にします。

1 POWER スイッチを ON にします（▃）。

2 FM/AM 切り換えボタンで聞きたいバンドを選びます。

3 FM ステレオ放送を聞くときは、MUTE/MODE ボタンを押して MUTING インジケーターを点灯させます。

4 TUNE MODE 切り換えボタンを押してオート選局インジケーター（AUTO）を消します。

5 TUNING ボタンを押して聞きたい局を選びます。
周波数を低くするときは左側（−）のボタンを、高くするときは右側（＋）を押します。ボタンを押すたびに FM は 0.1MHz ずつ、AM は 9kHz ずつ周波数が変わります。（押し続けていると連続して変わります。）
放送を受信するとシグナルメーターと STEREO インジケーター（FM ステレオ放送のときのみ）が点灯します。

電波の弱い FM 局を受信するには

MUTE/MODE ボタンをもう一度押して MUTING インジケーターを消し、受信状態の最も良い点を耳で確かめながら選局します。FM ステレオ放送はモノラルになりますが雑音が減って聞きやすくなります。ただし、局と局の間で雑音が出ますので、アンプの音量を絞ってから選局してください。

MUTE/MODE ボタン	MUTE ボタンとしての働き	MODE ボタンとしての働き
ON MUTING インジケーター点灯	FM 放送選局時の局間ノイズ（サーッという雑音）を取り除きます。	オートステレオ
OFF	遠くの放送局や電波の弱い放送局を受信する場合、雑音が減って聞きやすくなります。	強制モノラル

FM で強い電波の隣接局がある場合には

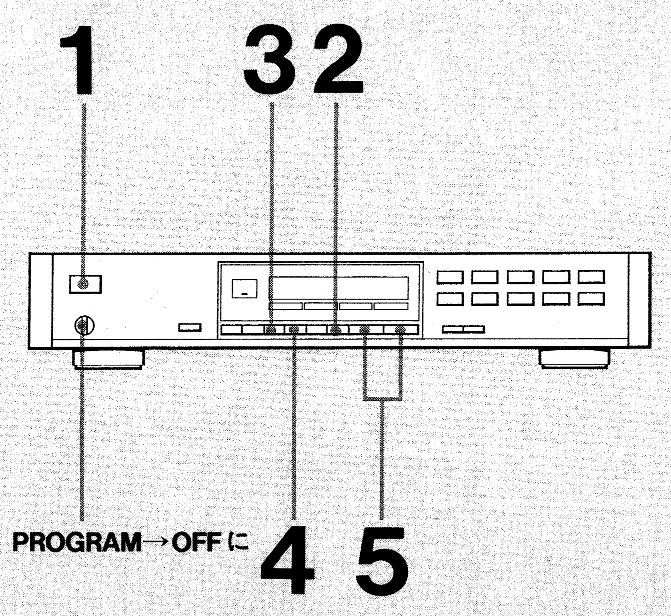
IF-BAND 切り換えボタンを押して NARROW インジケーターを点灯させます。選択度がよくなり妨害の少ない受信ができます。

2 本のアンテナを使いわけると

2 本のアンテナを方向を変えてつなげば、より受信状態のよいほうのアンテナを選んで FM 放送を聞くことができます。A アンテナでは受信できない局でも B アンテナを使うと受信可能となったり、隣接局どうしで方向が違う場合もアンテナを切り換えることで選択度がよくなります。

オート選局

聞きたい放送局の周波数を覚えていないときや、それぞれの放送局でどのような番組を放送しているか調べるときに便利です。



準備 PROGRAMスイッチを必ずOFFにします。

1 POWERスイッチをONにします（▁）。

2 FM/AM切り換えボタンで聞きたいバンドを選びます。

3 FMステレオ放送を聞くときは、MUTE/MODEボタンを押してMUTINGインジケーターを点灯させます。

4 TUNE MODE切り換えボタンを押してオート選局インジケーター（AUTO）を点灯させます。

5 TUNINGボタンを押して聞きたい局を選びます。
TUNINGボタンを押して周波数が変わり始めたら指を離します。放送を受信すると自動的に止まります。希望の局でないときはもう一度押して次の局を探します。

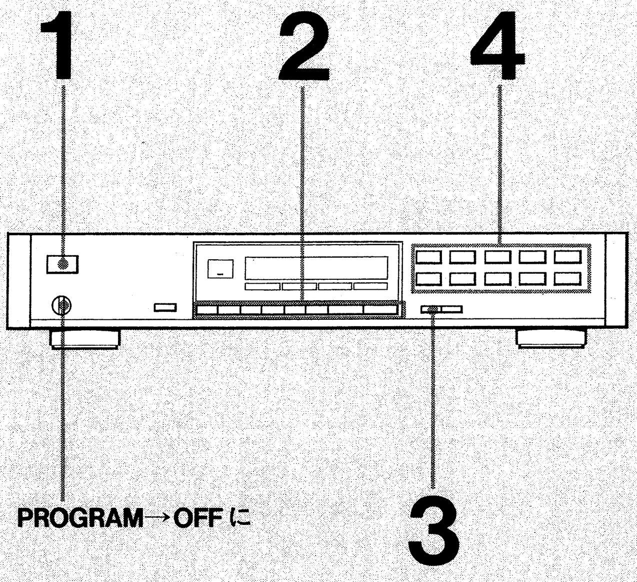
電波が弱い、雑音が多いなどで希望の局の周波数で止まらない場合は、マニュアル選局で受信してください。

低ひずみな受信を示すSSTインジケーター

IF-BANDボタンをWIDEにして（NARROWインジケーター消灯）、マルチパスが少なく電波の強い局を受信すると、SST（スーパーサウンド トレーシング）回路が動作してSSTインジケーターが点灯します。この状態では、より低ひずみ率で受信できます。

メモリーするには

FMとAM、合わせて10局まで、お好きなプリセットボタンにお好きな順序でメモリーできます。
メモリーしたい放送局の周波数をあらかじめ調べておき、どのボタンにメモリーするか決めておきましょう。



準備 PROGRAMスイッチを必ずOFFにします。

1 POWERスイッチをONにします(▬)。

2 マニュアル選局またはオート選局で放送局を受信します。(6、7ページ)
FMではMUTE/MODEボタンやIF-BANDボタン、ANTENNAボタンも受信状態に合わせて切り換えます。(これらのボタンの状態もメモリーされます。)

3 MEMORY/SETボタンを押します。

4 MEMORYインジケーターが点灯している間(約4秒間)に、メモリーしたいプリセットボタンを押します。

- メモリーし終ったら、プリセットボタンを順に押して正しくメモリーされているかどうか確かめましょう。
- MEMORYインジケーターが消えてしまったときは、もう1度MEMORY/SETボタンを押し、MEMORYインジケーターがついている間にメモリーし直します。
- 一度メモリーしますと、POWERスイッチをOFFにしたままでも、約1ヶ月間保持されます。

プリセットの入れかえ

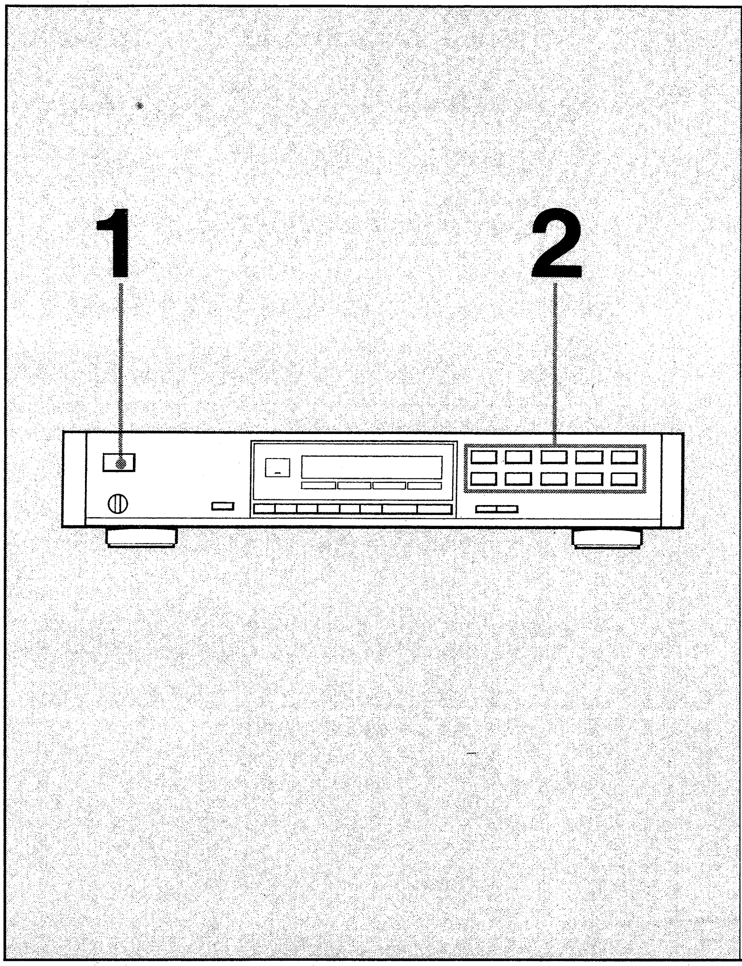
いったんメモリーした放送局を他のプリセットボタンに移したい場合は、次のようにします。

1 移したい放送局が入っているプリセットボタンを押します。
2 MEMORY/SETボタンを押します。
3 移したい先のプリセットボタンを押します。

この場合、移した先に入っていた放送局は消えます。

メモリー選局

プリセットボタンにメモリーされた局をワンタッチで受信することができます。



準備 プリセットボタンに放送局をメモリーしておきます。

1 POWERスイッチをONにします（▁）。

2 聞きたい局がメモリーされているプリセットボタンを押します。

メモリーした局を受信中、TUNINGボタンを押して他の局に変えたり、MUTE/MODEボタンで受信モードを変えても、もとのメモリーは保持されます。あとでプリセットボタンを押せば、はじめにメモリーした内容が呼び出せます。

メモリースキャン

メモリーした番組を調べるには

PROGRAMスイッチがOFFのとき、SCAN/READボタンを押すと、メモリーされている局が順に約4秒ずつ受信されます。プリセットボタンで放送を聞いていた場合はその次のボタンから、受信中の局が移動します。この時プリセットインジケーターが点滅し、受信中の局を示します。移動を止めるときは、プリセットインジケーターが点滅している間に、聞きたい局のプリセットボタンを押してください。

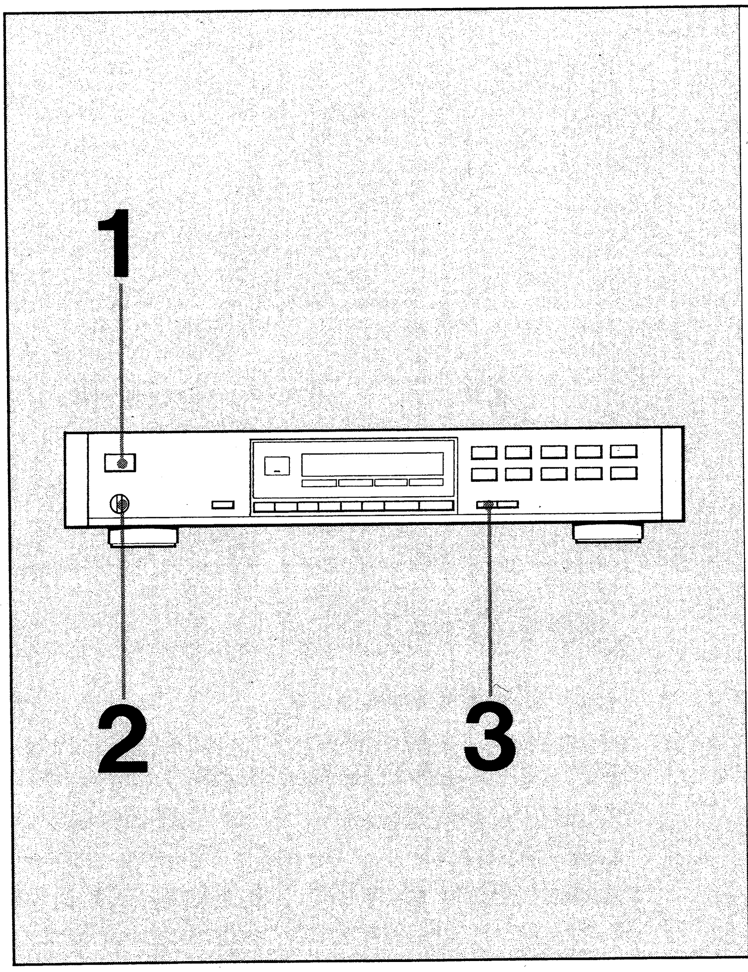
プログラムするには

別売りのタイマーを使うと、プリセットボタンにメモリーされている放送局の中から選んで、お好きな順序で4回まで自動的に受信できます。お好みの番組を自動的に受信したり、留守録音をしたりするのに便利です。
はじめに、何時にどの放送局を聞くかを決め、順にメモしておきましょう。
放送が始まる時刻の順番にプログラム1、2、3、4とします。

例

受信したい放送局	放送局をメモリーしてあるプリセットボタン		プログラムの順序［PROGRAMインジケーターが示します。］
午前7:00~8:00 FM東京	1	➡	1
9:00~9:30 ニッポン放送	6	➡	2
午後1:00~3:00 NHK FM	2	➡	3
5:00~6:00 NHK FM	2	➡	4

プログラムが決まったら、次のように番号順に操作してください。



1 POWERスイッチをONにします（▁）。

2 PROGRAMスイッチをSETにします。

3 MEMORY/SETボタンを押します。
MEMORYインジケーターが点灯している間（約4秒間）に放送局をメモリーしてあるプリセットボタンを順に押します。
（例では 1 、 6 、 2 、 2 の順です。）
プリセットボタンを押すたびにPROGRAMインジケーターの数字が1、2、3、4と進み、この順に放送局がプログラムされます。

● PROGRAMスイッチをSETまたはLOCKにしたまま電源を切ると、次に電源が入ったときは、プログラム1に入れた放送局が受信されます。その後も、電源が入るたびに、プログラム2、3、4、1、2……の順で放送局が受信されます。
このとき、PROGRAMスイッチがOFFになっていると通常の受信となり、プログラムは働きません。

● プログラム中にMEMORYインジケーターが消えてしまったときは、もう一度MEMORY/SETボタンを押して、初めからプログラムし直してください。

● 8時までA局を、8時からB局を、というように、電源をONにしたままで自動的に放送局を切り換えることはできません。7時59分にOFF、8時に再びONになるようにタイマーを合わせてください。

プログラムリードのしかた

プログラムした放送局の順序を確認するには

PROGRAMスイッチをSETにします。SCAN/READボタンを押すと、プログラムされている放送局を次に受信する局から順に約2秒間ずつ受信します。それに伴ってプログラムされているプリセットインジケーターが点滅し、プログラムされた局を示します。
プログラムされている放送局をすべて呼び出し終わると、最後にプログラムされている局を受信しつづけます。

誤操作を防止するには

PROGRAMスイッチをLOCKにしたまま電源を切ります。
LOCKの位置にしておきますと、電源スイッチ、METERボタン以外の一切のボタンが働かなくなります。誤って各種のボタンをいじられても、セットしてある内容には影響しません。

プログラムした局をキャンセルするには

PROGRAMスイッチをSETにします。MEMORY/SETボタンを押したあと、プリセットボタンを1つでも押すと、前にプログラムされていた局はすべてキャンセルされます。一部だけをキャンセルすることはできません。部分的なプログラムの入れ替えの場合にも、全部を最初からプログラムし直してください。

プログラム受信中に他の局を聞くには

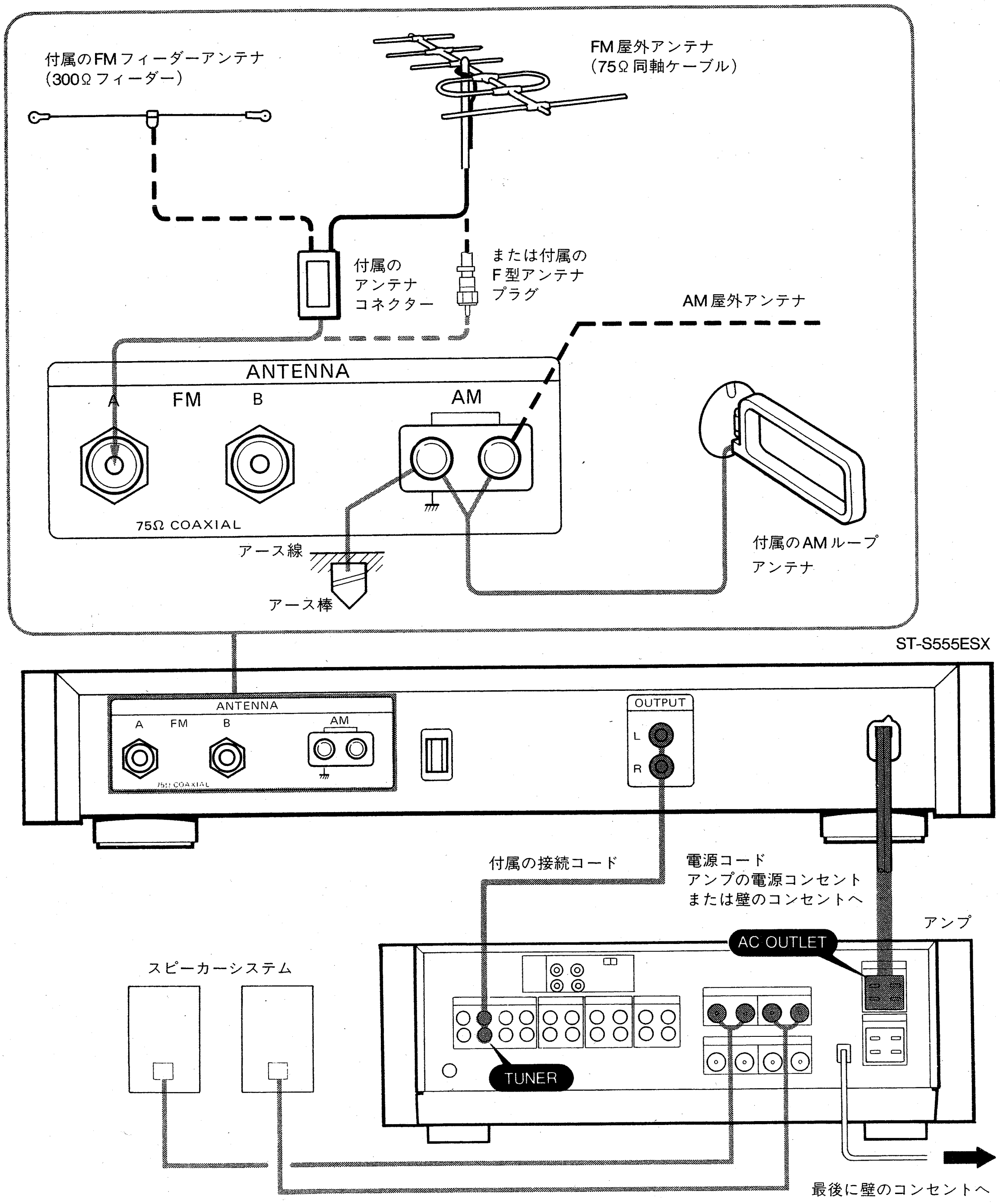
PROGRAMスイッチがSETやLOCKになっていると、TUNINGボタンやプリセットボタンは働きません。
PROGRAMスイッチをOFFにしてからTUNINGボタンやプリセットボタンを押してください。
このとき、プログラムされている内容はすべて保持されています。

CAL TONEのロックと解除

プログラムスイッチをSETにし、CAL TONEボタンを押し、PROGRAMスイッチをLOCKにすると、CAL TONEが出力された状態でロックされてしまいます。
このままでも、次の電源ON時にはCAL TONEは自動的に解除されて、以前にプログラムされていた局が受信できるので、留守録音に差しつかえはありません。
しかし、CAL TONEのロックを解除したいときは、PROGRAMスイッチをSET位置に戻して、CAL TONEボタンを1度押してください。

接続

必ずPOWER(パワー)スイッチをOFF(オフ)（■）にしてから接続しましょう。



接続コードのつなぎかた

白いプラグは左チャンネルに、赤いプラグは右チャンネルにつなぎます。

プラグは最後までしっかり差し込みます。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。

配線したコード類は整理しておく

接続コードやスピーカーコードがAMループアンテナやアンテナリード線に触れると雑音の原因になります。できるだけ離しましょう。

FMアンテナ

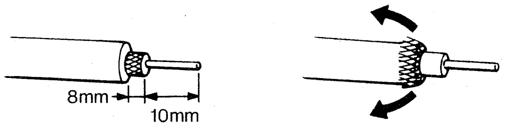
音質の良いFM放送を楽しむために、受信地の条件に合った専用外部アンテナをたてましょう。
付属のFMフィーダーアンテナは、外部アンテナをたてるまでの間、一時的にお使いいただくためのものです。

75Ω同軸ケーブル

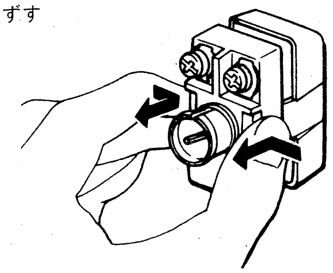
同軸ケーブルを使うと、雑音の影響を受けにくくなります。同軸ケーブルは太さにより数種類ありますが、3C-2Vが適当です。

付属のアンテナコネクターを使う場合

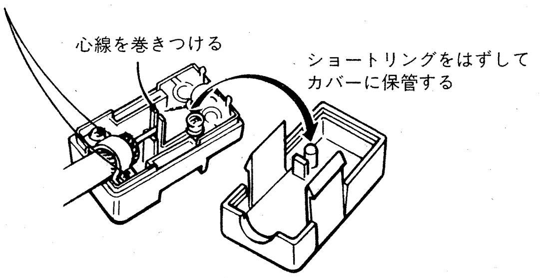
① ケーブルの先端を処理する



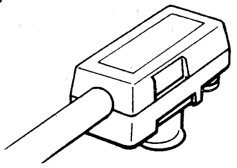
② カバーをはずす



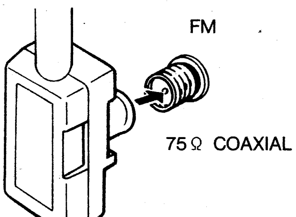
③ ねじをしめてシールドを固定する



④ カバーをはめる

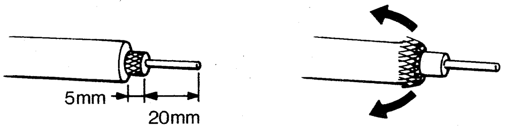


⑤ FMアンテナ端子へつなぐ

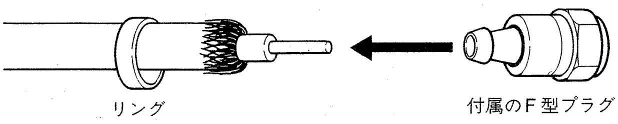


付属のF型アンテナプラグを使う場合

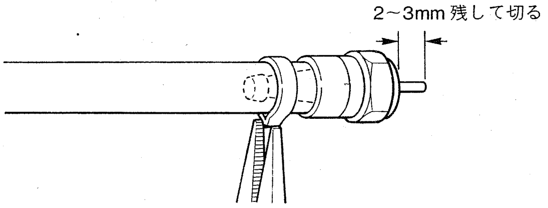
① ケーブルの先端を処理する



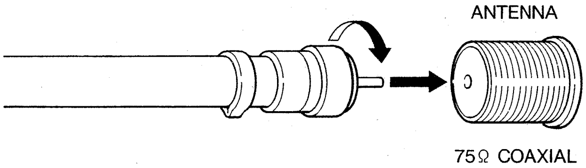
② リングを通し、プラグを差し込む



③ リングを締めてプラグを固定する



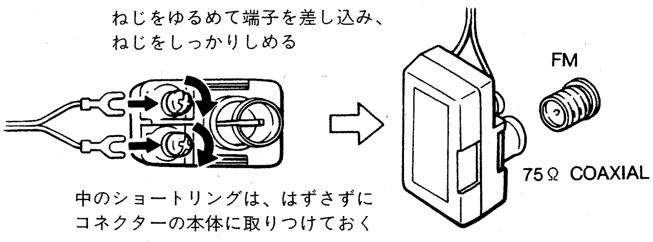
④ FMアンテナ端子へつなぐ



300Ωフィーダー

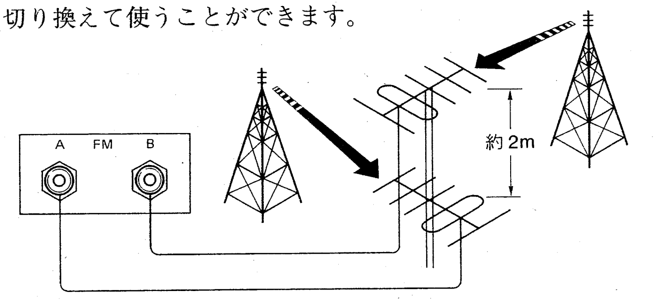
フィーダーは周囲の雑音の影響を受けやすいので、引き回しには十分な注意が必要です。また、あまり長くするとフィーダー自体がアンテナとなって、不要な電波を拾ってしまうので、できるだけ短くしましょう。

付属のアンテナコネクターを使って次のように接続します。



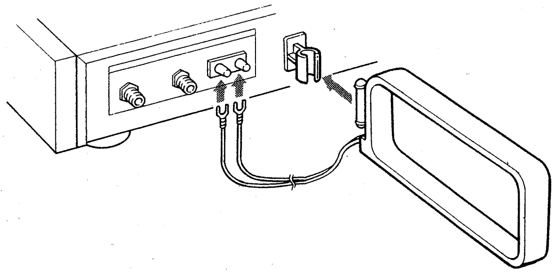
FM A、B 端子について

2つの異なる放送局について、それぞれ最適受信状態が得られるように方向や高さを変えて2本のアンテナを立てることができます。1本のマストを共用する場合は、図のように2m以上離して取り付けてください。
いったん接続したアンテナは、前面のANTENNAボタンで切り換えて使うことができます。

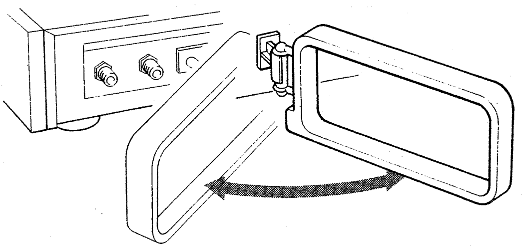


AMアンテナ

AM放送を受信するために、必ず付属のAMループアンテナをつないでください。このアンテナをつながないとAM放送が受信できません。

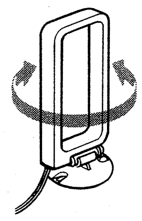


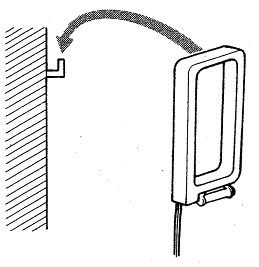
AMループアンテナには、一定の角度から来る電波を強く感じる性質（指向性）があります。最も受信状態が良い方向を探して動かしてください。



AM放送録音中に、ピーという雑音（ビート音）が出ることがあります。このようなときはAMループアンテナを雑音の消える位置に動かしてください。

このAMループアンテナは、スタンドに切り込みを付けてあります。スタンドを水平に置き、アンテナを立ててお使いいただけますので、受信状態の一番よいところを選んで自由に移動することができます。
スタンドを壁に固定したり、壁にフックを作りアンテナをかけて使うこともできます。





AM屋外アンテナ

付属のAMループアンテナを動かしてみても受信状態がよくならない場合は、5m以上のビニール線をAMアンテナ端子につないでください。ビニール線は窓際や屋外になるべく高く、水平に張ると効果的です。このとき、AMループアンテナをはずす必要はありません。（12ページ）

アース線

雑音が多い場合や、電波が弱い場合は、アースをつなぐと、ハムや雑音が減ることがあります。ビニール線をアース(⏚)端子につなぎ、もう一方の端子を50cm以上むいて、そのまま、または金属棒（銅製）につないで地中に埋めます。または完全にアースされた水道管（鉛管）につなぎます。

- 外部アンテナをたてたときは、雷による危険を防ぐため、必ずアースをつないでください。
- ガス管につなぐのは危険です。絶対にやめましょう。

電源コード

電源コードには、一方に白いマーキングが入っています。マーキングが入っている側がコンセントの差し込み口の長い方（アース側）にくるように差し込みますと、より良い音質で楽しめます。

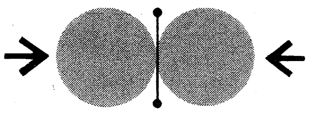
化粧側板について
本機の左右には化粧側板が取り付けてありますが、都合によりこれを外して使うときは、側板を止めていたネジの代わりに、付属の短いケース止めネジ（M4×8、4本）を使用してキャビネットを止めてください。
なお安全のため、電源コードを電源コンセントから抜いて、作業してください。

FMアンテナについて

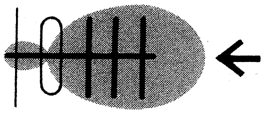
FM放送を受信するには、性能の良いチューナーを選ぶことも重要ですが、それ以上に電波を受ける入口となるアンテナに気を配る必要があります。

アンテナと指向性

FMアンテナには一定の角度から来る電波を強く感じる性質（指向性）がありますが、付属のフィーダーアンテナですと、図のように8の字の指向性を持っており、前から来る電波も後ろから来る電波も同じ感度で受信しますので、マルチパス*の影響を強く受けます。



これに対し多素子のアンテナは一方向にのみ強い指向性を持ち、利得（受信する力）も高いので、電波を強く受信でき、雑音も少なくなります。素子が多いほどアンテナの指向性は良くなり、利得も高くなります。電波の弱い地域や遠距離の受信に適し、より良好な受信を楽しめます。大きなアンテナが設置できない場合は、ソニーの外部アンテナをご利用ください。



別売り外部アンテナ

大きなアンテナが設置できない場合は
——ソニーヘリカルFMアンテナAN-300（卓上用）
電波の比較的強い地域には
——ソニールーピックアンテナAN-30（室内用）
マルチパスの影響を受けやすい地域には
——ソニールーピックアンテナAN-31（屋外用）

アンテナのたてかた

- 建物の陰にならず、FM局の送信アンテナから電波が直接入る場所に、最も受信状態の良い高さで建てます。
- 自動車のイグニッションノイズを避けるため道路からなるべく離してたてます。
- 他のアンテナ（TVアンテナなど）やトタン屋根などからは最低2mくらい離します。

＊マルチパス

山があったり、ビルが多いとアンテナがFM放送の電波の直接波だけでなく反射波も受けてしまうことをいいます。マルチパスの影響を受けると音質やステレオの分離度などが悪くなります。ST-S555ESXでは、一目でマルチパスの程度がわかるマルチパスメーターを設けています。マルチパスが強いほどメーターは多く点灯しますので、このようなときはアンテナの位置や向きを変えてください。

主な仕様

回路方式	PLLデジタル周波数シンセサイザー クォーツロック方式 AM/FMステレオチューナー

FMチューナー部

受信周波数	76〜90MHz
アンテナ端子	75Ω不平衡型
中間周波数	10.7MHz
S/N	99dB（モノ）、92dB（ステレオ）

感度（新IHF）			
	S/N 50dB感度	モノ	16.8dBf（1.8μV）
		ステレオ	37.9dBf（22.5μV）
	実用感度		10.3dBf（0.9μV）

高調波ひずみ率（1kHz、WIDE）	0.005％（モノ）、0.008％（ステレオ）
ステレオ分離度（1kHz）	70dB（WIDE）
周波数特性	15Hz〜15kHz、$^{+0.2}_{-0.5}$dB
実効選択度	65dB（300kHz 、NARROW） 65dB（400kHz 、WIDE）
キャプチャーレシオ	1.0dB（WIDE）
AM抑圧比	65dB
イメージ妨害比	120dB以上
IF妨害比	120dB以上
スプリアス妨害比	120dB以上
RF相互変調妨害比	83dB（800kHz）、93dB（2.4MHz）
サブキャリア成分比	75dB
ミューティングレベル	29dBf（8μV）
オート選局レベル	29dBf
出力	750mV、1kΩ（75k dev.）

AMチューナー部

受信周波数	531〜1,602kHz
アンテナ	AMループアンテナ 外部アンテナ端子付き
中間周波数	450kHz
感度（999kHz）	300μV/m（AMループアンテナ使用時） 30μV/m（外部アンテナ使用時）
S/N（50mV/m）	54dB
高調波ひずみ率	0.3％（400Hz）
選択度	55dB（9kHz）
オート選局レベル	55dBμ/m

電源部・その他

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	21W
最大外形寸法	470×86×335mm（幅/高さ/奥行き）
重量	5.6kg
付属品	AMループアンテナ（1）、 FMフィーダーアンテナ（1）、 F型アンテナプラグ（1）、 アンテナコネクター（75Ωまたは300Ω→F型）（1）、接続コード（1）、 ケース止めネジ（M4×8）（4）、 取扱説明書（1）、保証書（1）、 サービス窓口のしおり（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

トラブルチェック

チューナーの調子がどうもおかしい――そんなとき、サービス窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみましょう。
案外、簡単なミスや勘違いをしていたり、ちょっとしたお手入れで直ることが多いものです。

	症状	原因	処置
共通	受信状態がよくない。	アンテナ切り換えが間違っている。	使用したいアンテナのほうへ切り換える。
		アンテナの接続が悪い。	アンテナの接続を確かめる。
		アンテナの向きや設置場所が悪い。	アンテナの向きや設置場所を変えてみる。
操作について	プリセットボタンを押しても受信できない。	周波数が違う。	正確な周波数をメモリーする。
		PROGRAM スイッチがOFFになっていない。	PROGRAM スイッチをOFFにする。
	TUNING ボタンを押しても周波数が変わらない。	PROGRAM スイッチがOFFになっていない。	PROGRAM スイッチをOFFにする。
	オート選局のとき、TUNING ボタンを押しても聞きたい局の周波数で止まらない。	電波が弱い。	手動選局をする。
表示について	シグナルメーターの点灯が不安定。	アンテナのリード線が断線している。	新しいリード線と取り替える。
		放送局の周波数に合っていない。	正確な周波数に合わせる。
	STEREO インジケーターが点滅する。	放送局の周波数に合っていない。	正確な周波数に合わせる。
		電波が弱い。	モノラル受信にはなるが、MUTE/MODE ボタンを押して MUTING 表示を消す。
音について	音が出ない。	アンプとの接続が悪い。	アンプとの接続を確かめる。
		アンプの入力切り換えが間違っている。	アンプの入力切り換えをTUNERにする。
	雑音が多い。	アンテナとの接続がフィーダー線である。	同軸ケーブルに変えてみる。
		AM ループアンテナに FM のアンテナ引き込み線や接続コード、電源コード、スピーカーコードなどが接触している。	コード類をAMループアンテナから離す。
		螢光灯や冷蔵庫、テレビ、トランシーバー、アマチュア無線機をそばで使っている。	雑音源と、チューナーやアンテナのリード線を離す。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを ➡「トラブルチェック」の項を参考にして、故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ ➡ お買い上げ店、または添付の「サービス窓口、ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

ソニー株式会社　〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ
●東京(03)448-3311 ●大阪(06)251-5111 ●名古屋(052)232-2611

保証期間中の修理は ➡ 保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は ➡ 修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

当社ではステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
- 型名：ST-S555ESX　●購入年月日
- 故障の状態：できるだけ詳しく

Printed in Japan

3-765-328-**01**(1)